

「私に任せてください」の一言で 大船に乗った気持ちで調査に臨めました

岐阜県で舗装工事業を営む有限会社王聖建設は、会社設立10年前後の間に2回税務調査を受けている。2回とも顧問税理士のフオローのおかげで、大きな問題もなく、スムーズに進んだという。実際に税務調査に立ち会い、「税務調査の最大の対策は顧問税理士の徹底活用」ということを体感した、同社社長夫人の長谷川みゆき氏に体験を話していただいた。

当社は設立してから10年くらいになります。7年ほど前から顧問税理士として永井孝幸先生（Q T A X岐阜各務原店所長税理士）をお願いしております。これまで当社には2回税務調査が来ていますが、2回とも永井先生に立ち会っていただき、スムーズに終わらせることができました。

永井先生は税務署のご出身で、常日ごろから「もし税務署から電話がかかって来たら、即答しないで私に回してください」とおっしゃっていました。

「社長は現場に出て、しっかりお仕事に励んでください」

はじめての税務調査は今から5年ほど前でした。

永井先生から税務調査の話をいろいろと聞いていましたけれど、まさか当社にも税務署から電話がかかってくる

とは思いませんでした。しかし、永井先生からいつも「私に電話を回して」と言われていたので、冷静に対応できました。

永井先生は夫である社長に「調査は私に任せてください。社長はその間現場に出てしっかりお仕事に励んでください」と言ってくれました。この言葉にとっても救われ、大船に乗った気持ちで落ち着いて調査に臨めました。税務調査では社長ははじめの教時間あいさつに応じた程度で、すぐに現場へと出て行きました。あとは私と経理担当の事務員が立ち会いましたが、永井先生がずっと中心になって対応してくださいました。

調査内容は「アルバイトの人情費が外注費になるか給与になるか」ということと「決算期をまたぐ工事代金の処理」について。専門的な質問について

有限会社王聖建設

（岐阜県加茂郡川辺町）

長谷川みゆき氏

「税務調査は永井先生にお任せして、私は安心して現場に出ることができました」

代表取締役社長

長谷川清司氏



●有限会社王聖建設

地域に根ざした舗装工事業として約10年の業歴を刻む。



は、よく分かりませんでした。永井先生がよどみない説明で対応してくださり、円滑に進みました。

はじめは税務署から結構な額の追徴を求められたのですが、永井先生が「見解の相違」と主張し、ほぼゼロに近い金額で済みました。

「先生がいれば大丈夫」なので 2回目は落ち着いて対応

はじめての税務調査から3年ほど経った一昨年、2回目の税務調査がありました。

調査内容は1回目同様「決算期をまたぐ工事代金の処理」について。一度経験しているので、永井先生のご指導通りに、書類をそろえておき、落ち着いて準備にあてられました。

2回目の税務調査は2日間。初日は税務署から1人、2日目は2人来ました。2回目ということもあり、さほど不

安になることはありませんでした。

もちろん、緊張はしましたが「永井先生がいれば大丈夫」ということを、前回の税務調査で感じたので、慌てることなく対応できたかと思います。

税務署からはいくらかの追徴を要求されましたが、前回同様、永井先生の交渉によつて、ほぼゼロに近い金額で終わられました。

税務調査は不安なものです。そんなときに頼りになるのは顧問の税理士先生です。調査官の専門的な質問に対してスラスラと答え、まるで通訳のようでした。このときほど、永井先生のありがたみを感じたときはありませんでした。

税務調査に関しては、自力で頑張ろうなんて思わないほうがいいですね。顧問税理士に任せてしまつて、指導通りに動けば、スムーズに進みます。

また、税務調査の対応を顧問税理士に頼むと、社長は最初の数時間あいさつだけして、あとは調査に出なくていいのが素晴らしいです。特に当社は社長が現場を空けるわけにいかないので、とても助かりました。

中小企業は税務調査に対して何も分からなくても大丈夫です。永井先生のような頼りになる税理士先生がいれば、安心して税務調査に臨めます。

「税務署から電話が来ても慌てずに」と常々話しています

有限会社王聖建設の税務調査を担当したQ-TAX岐阜各務原店

永井孝幸氏（所長 税理士）

私は税務署の出身なので、顧問先の方々には、常に税務調査を念頭に置いて指導を実施しています。

税務調査は突然連絡が来るので、税務署から電話がかかっても慌てずに私まで連絡するよう、ことあるごとに話すようにしています。そのため、王聖建設さんも慌てず冷静に私まで連絡してくださいましたね。

王聖建設さんは経理をきちんと行っています。なぜ税務調査が来るのか疑問だったのですが、取引先に税務調査が入り、その一環で調査が入ったようです。そのため1回目は1日で終わりました。

1回目、2回目のときも「決算期をまたぐ工事代金の処理」についてチェックが入りましたが、2回目のときは「未成工事支出金」について「いつもは存在するのに、どうしてこの期は計上されていないのか」と聞かれました。

このあたりは建設業では典型的な調査項目。見解の相違こそありましたが、もともと経理が堅いので、スムーズに調査が終わり、交渉も納得がいく結果になりました。